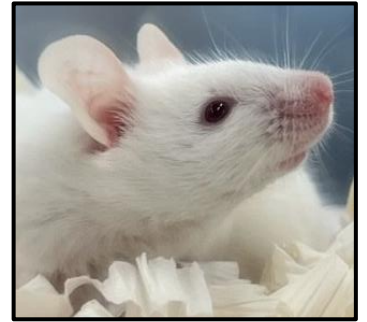
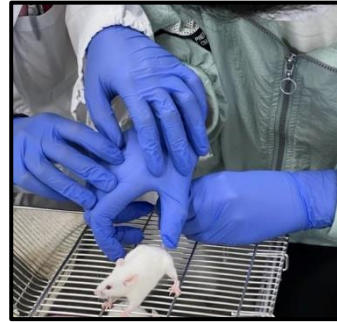


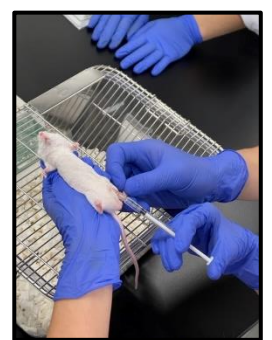
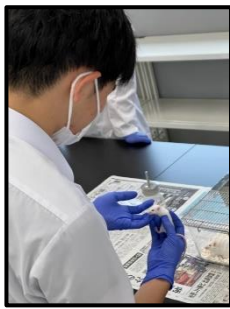
短期集中講座 SS セミナーB 第4回目 (動物生殖学分野)

9月24日(土)に東京農業大学(厚木キャンパス)で実施された

第4回目の様子です。受講生徒;高校1,2年生



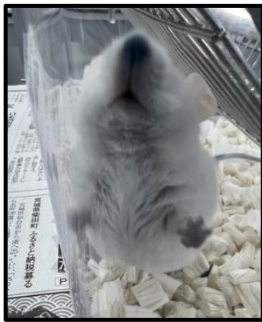
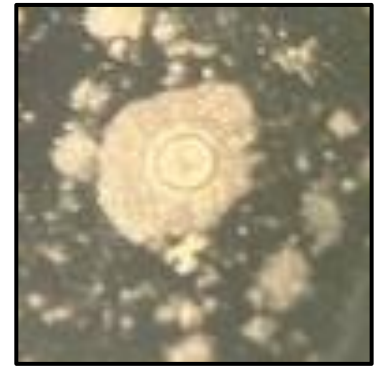
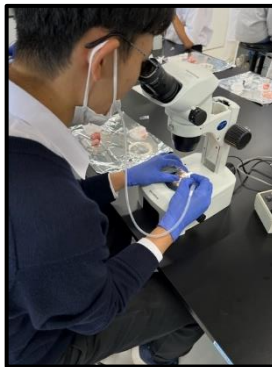
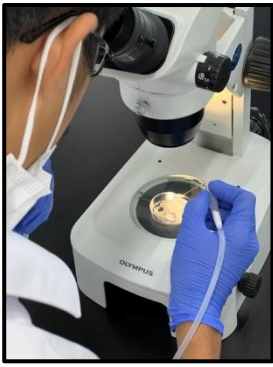
今回は、実習室に入ると,,可愛い! マウスがいっぱいいました。まずはマウスに慣れるために、ヨシヨシしてあげるところからみんな取り組みました。慣れてきたら、図のように、裏返しに姿勢を保つように手で固定します。このことを“保定”といいます。



マウスの背中の皮膚は想像以上に伸びましたね。空腹時の血糖を測定し、グルコース溶液を腹腔注入して、血糖値の変化を見ました。マウスの空腹時血糖は、73や93 mg/mLでした。注入後は200 mg/mLくらいまで上昇しましたね。血糖値の上がった後、眠くなって寝てしまったマウスもいました。



後半の実習は、ウシの卵巣の卵胞に注射器を挿して、卵細胞を抽出しました。卵巣に含まれる性ホルモン(女性)は、人体に付着すると、特に女子生徒は影響が出るので、慎重に操作をしました。なぜ影響が出るのかは、厚高の授業で10月下旬の範囲で学習します。



さらに、人工授精の模擬体験をしました。顕微鏡を覗きながら、口に咥えたチューブを使って、卵細胞に見立てた極小ビーズを移動させました。右側の写真は、厚高生（1年生）が取り出した卵細胞です。大学院生に、「教科書に載せていくくらい綺麗な状態」と言ってもらえました。左の写真は、青色色素を注入したマウスです。鼻が青く（黒く）なっているのがわかります。全身も血管のある部分は青色に見えます。これもちゃんと意味のある実験でしたね。※カピバラも2頭飼育しているそうです。

【受講生徒のアンケート（一部抜粋）】

- ・普段は名前しか聞かないハツカネズミを実際に手に取って、グルコースを注射し、実験するという新鮮な体験ができて良かった。
- ・手を突っ込めるほど牛の子宮は大きいのに卵巣は小さかった。ネズミが鳴いたときの恐怖というより罪悪感はやっていけば薄れていくんだろうか。
- ・今までネズミを触ったり、牛の卵巣・卵子を実際目で見たことがなかったので、今回の講義はとても新鮮でした。
- ・動物実験を行うことで、私たち人間が安全に過ごさせているので感謝しなくてはならないと感じました。
- ・運良く状態の良い卵細胞を見つけられて嬉しかった。
- ・動物を使う実験は動物をそれなりに扱えないといけないから技術だけでなく経験も必要なんだな、と思いました。高校では今回やったように生きた動物を使う実験は出来ないと思うし、将来またやることも無いかもしれないのでとても貴重な体験が出来ました。ネズミに注射をする時、私のところはオスだったので関係なかったのですが、妊娠しているメスに注射をする時は子供がいる位置とかも考えないといけないのかな、と疑問に思いました。お腹のどこら辺で赤ちゃんが育つのか知りたいです。
- ・初めてマウスを使った実験をしました。注射をするなどの貴重な体験ができてよかったです。実験は少し難しかったけどコツを掴んで来ると上手くできるようになってきて楽しかったです。

- ・台風接近の中、実施が危ぶまれましたが、無事できました。また、期末試験前にも関わらず、厚高生は一生懸命頑張ってくれました。帰ったらテスト勉強再開かな。
- ・今回の実習は生体や人体に影響のあるものを扱ったので、動物生殖学研究室の大学院生10名、学部生1名が実習のサポートに付き添ってくれました。厚高生を上回る数で、手厚く実習していただきました。

次回は11月12日（土）
テーマは『食資源利用学』だよ

